

私が特に強く感じたことは、現状を多くの人に知ってもらうことがいかに重要か、また同時にそれがいかに難しいか、ということです。

ニュースが伝えるのは事件や事故が起きたそのときだけで、その後の進捗状況や今後の課題について伝えることが少ないという傾向があります。事実、震災から4年が経過したいま、福島県の現状を伝えるニュースを見る機会はほとんどありません。

私自身、表面の土を削り取る以外の除染方法があるということ自体、今回の講義をお聞きするまで考えもしませんでした。やはり、そういうことを多くの人に向けて発信できるツールがいちばん必要なのでは、と思います。

マスメディアなら視聴者や購読者から反響があり、なかには名案を考え付く人もいるかもしれないですが、なかなか難しい問題で、そもそも知るきっかけが与えられないとそのことに関して考えたり調べたりすることすらできないので、現状を実際に見て把握することの重要性を再認識させられました。また、溝口先生は小学生に特別講義をされているようですが、そういった取り組みも重要だと思いました。

前置きが長くなりましたが、私は被災地の今後の農業としていわゆる植物工場かそれに準ずる新しいものを展開していくべきだと思います。

人もいなくなり土地も放射能汚染や塩害などで荒れてしまっている状況から復旧は困難だと思いますし、また仮に復旧したとしても消費者が福島県産の作物を従来どおり受け入れてくれるかもわかりません。

具体的には何をやったらよいかというと、ひとつには、土を使わない農業、たとえば完全に屋内で行う畜産とか、レタス・トマトなど野菜のハウス栽培(液肥による水耕栽培)、あとは食べ物ではなく花き類(園芸植物)の鉢花や切り花の生産、採種用の栽培などに土地を利用するというのも一案です。福島県の新しいブランドイメージをつくることのできるチャンスかもしれません。

工芸作物やバイオエタノールの原料の生産も可能ではないでしょうか。サトウキビは亜熱帯系の気候でないと無理かもしれませんが、それに類する作物を模索するなど。

まとまりがない文章になってしまい申し訳ありません。いろいろ考えてみた結果、花き園芸で新しいブランドをつくるというのがひとつ比較的簡単に始められる可能性がありそうと思いました。